

書誌第104号追

北海道沿岸水路誌

追補第8

令和5年(2023)12月22日発行



海上保安庁

北海道沿岸水路誌

追補第8

この追補は、平成31年3月刊行の北海道沿岸水路誌の記載事項を更新するもので、令和5年11月24日までに入手した資料を基に編集したものです。

追補は、更新情報を記載した「本文」と、それを検索するため、ページ番号等を記載した「索引」から構成されています。

「索引」については、更新箇所の表題や港名等を記載し、ページ番号順に並べています。

「本文」については、本追補の更新箇所は、灰色背景で赤色文字にて示しています。

【】で囲んだ内容は、削除や差し替えを行うことを意味しています。

図の挿入等によりページ内に収まらない場合は、水路誌本誌とのページ番号を整合させるため、追補においては、便宜的に枝番号を付しています。

令和5年12月22日

海上保安庁海洋情報部

注 意

海上保安庁は、各国が発布した諸法規、宣言、海図及び水路通報・航行警報並びに船舶等からの視認報告のうち、船舶交通の安全の確保と海洋環境の保全という観点から、航海の安全及び環境保全に影響を与える可能性のある情報については、水路通報及び航行警報により周知するほか、海上保安庁の海図その他の航海用刊行物にも掲載するようにしています。

これらの情報を利用するにあたっては、海上保安庁によるこれらの情報提供は、航海の安全等のための利用を目的としており、その内容は日本政府がこれらの諸法規、宣言等を承認したことを意味するものではない点に留意してください。

ページ	更新箇所(表題、港名等)	備考
63	葛登支岬～大鼻岬 {函館湾}	追補第2の当該ページは無効
66	函館港	追補第7の当該ページは無効
74	森港	
76	室蘭港	追補第6の当該ページは無効
77	室蘭港	追補第7の当該ページは無効
87	苫小牧港	追補第7の当該ページは無効
92	様似《サマニ》港	追補第7の当該ページは無効
93	えりも港	
94	えりも港	
96	庶野《ショヤ》漁港	追補第2の当該ページは無効
164	石狩湾港	追補第4の当該ページは無効
180	瀬棚港	追補第7の当該ページは無効

目標

地物名	概位	備考
シーバース	41° 48.1' N 140° 39.3' E	太平洋セメントシーバース、シーバース灯（レーダ ＝ 反射器・モータサイレン各付設）と北西方対岸の工場との間にベルトコンベアが架設してある。 付近に浮標が多数設置してあり、沖合から好目標
7 煙 突	41° 49.2' N 140° 37.9' E	各灰色、常時白煙を上げ遠望顕著。また、工場内の灯火は夜間の好目標となる。
タンク 群	41° 49.4' N 140° 42.0' E	コスモ石油函館物流基地内
函 館 山	41° 45.6' N 140° 42.3' E	最高所を御殿山（高さ 333m）といい、山頂付近にテレビ中継塔などの目標物があり、各方向から昼夜とも顕著
無線塔	41° 44.9' N 140° 42.3' E	JR 無線中継所、白色、屋上にパラボラアンテナがあり、白灯を点ずる。

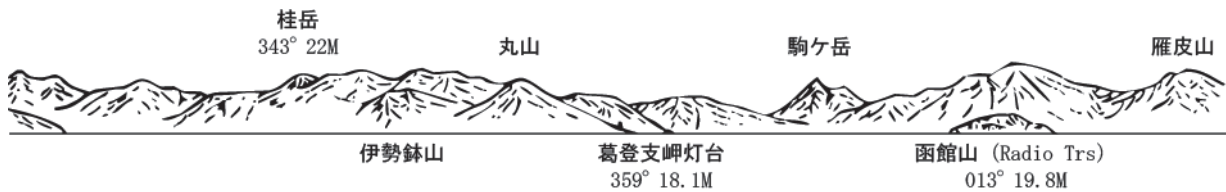
注意 冬季の北西風の際、上磯方面で雪が降り出すと、入港するころには吹雪となり、航行が困難になることがあるので、入港船は天候に注意して、太平洋セメント上磯工場の煙突（41° 49' N 140° 38' E）又は灯火が見えないときは、入港を一時見合わせるのがよい。

海難 湾内で風や波による海難が発生したのは極めてまれであるが、かつて、昭和 29 年 9 月の台風 15 号の来襲により、旧国鉄青函連絡船「洞爺丸」（3,898t）など 6 隻が沈没又は座礁して、多数の死傷者を出したことがあった。

錨地 入港を一時見合わせる場合の錨地としては、函館港外太平洋セメントシーバース灯（41° 48.1' N 140° 39.3' E）から 135° 1.5M（水深 20m、底質泥、石）付近が適当である。

函館湾対景図

南方から函館湾を望む



中央 ふ頭	北側第1岸壁	41° 47.0' N 140° 43.4' E	171	7~8.5	10,000×1	正面岸壁に 接続
	北側第2岸壁	41° 47.0' N 140° 43.5' E	165	7.5	10,000×1	合同庁舎並 びの位置
	北側第3岸壁	41° 47.1' N 140° 43.6' E	90	2~5	3,000×1	陸側E・M 荷役設備あり
	正面岸壁	41° 47.0' N 140° 43.3' E	133	7~7.5	1,000×1	
	南側岸壁	41° 46.9' N 140° 43.4' E	133	7~8	7,000×1	
若松ふ頭岸壁		41° 46.4' N 140° 43.3' E	360	10~10.5	90,000t×1	
豊川ふ頭岸壁		41° 46.2' N 140° 43.2' E	530	4~5	1,000×7	
西 ふ 頭	D岸壁	41° 46.4' N 140° 42.7' E	140	3	1,000×2	
	E岸壁	41° 46.5' N 140° 42.7' E	165	9	10,000×1	
	F岸壁	41° 46.5' N 140° 42.6' E	105	6	3,000×1	

最大入港船舶 2023年5月9日、客船 MSC ベリッシマ (171,598 t、喫水 8.7m) が入港した。

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、渡島及び檜山地区台風・津波等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問合わせ先：函館海上保安部 TEL 0138-42-5658）。

海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
函館海上保安部（港長）	0138-42-5658	横浜植物防疫所札幌支所 函館出張所	0138-42-6671
函館税関（本関）	税関相談官 0138-40-4261	札幌出入国在留管理局 函館出張所	0138-41-6922
北海道運輸局函館運輸支局	0138-49-9901	函館市港湾空港部 ふ頭管理事務所	0138-41-3543
小樽検疫所函館出張所	函館空港出張所へ連絡 0138-59-0248		

引船 大型船用の引船がある。

通船 通船があり、第2区の海岸町船だまりから発着する。

補給 給油船による補給ができる。

修理施設

造船所名	電話番号	造船所名	電話番号
函館どつく株	0138-22-3111	函東工業株	0138-42-1256

廃油処理施設

事業者名	申込先	利用時間	処理する廃油の種類	
			廃重質油	廃軽質油
(株) テクノ	0133-64-5222	0830~1800	ビルジ、水バラスト、タンク 洗浄水、コレクトオイル、ス ロップオイル、スラッジ	ビルジ、水バラスト、タンク 洗浄水、コレクトオイル、ス ロップオイル、スラッジ

補給 少量の清水、燃料油及び氷の補給ができる。

医療施設

名 称	電話番号
新都市砂原病院	01374-8-3131

森 港 (42° 07' N 140° 36' E) (海図W17) (JP MOR)



5

(2017年8月撮影)

港種 港則法適用港

概要 砂原漁港の西南西方約4.4Mにある港で、本港、東港、西港及び新西港に分かれている。20t未満の地元漁船のほか500t前後の船舶が年間数百隻程度利用しているが、各港口及び港内とも狭い。

10 気象 4～10月は南西風、11月～翌年3月は西北西風が多く吹くが、風速10m/s以上の風は少ない。

海霧 霧は、4～8月にかけて発生するが、霧日数は少ない。

潮汐 この港における平均高高潮は1.3m、平均低低潮は0.4m、平均水面は0.92mである。

目標

地物名	概位	備考
塔	42° 06.6' N 140° 35.7' E	気象標識塔、森漁業協同組合の建物屋上、赤・青色灯を天候に応じて点灯する。
灯台	42° 06.7' N 140° 35.5' E	森港西防波堤灯台

15 錨地 港域内及び周辺海域では養殖施設等により錨泊できない。

港湾施設

名 称	概 位	長 さ (m)	水 深 (m)	係船能力 (D/W×隻)	備 考
本港-5.5m岸壁	42° 06.6' N 140° 35.6' E	261	3~5.5	2,000t×3	本港
本港中央ふ頭-4.5m岸壁	42° 06.7' N 140° 35.8' E	85	2~ 2.5	1,000t×2	本港
本港第2・3物揚場	42° 06.7' N 140° 35.7' E	延長108	3.5	—	本港
本港東物揚場	42° 06.7' N 140° 35.9' E	160	4	—	本港
本港中央ふ頭物揚場	42° 06.7' N 140° 35.8' E	116	1.5~3.5	—	本港
西港物揚場	42° 06.6' N 140° 35.4' E	322	2.5	—	西港
東港物揚場	42° 06.8' N 140° 36.1' E	195	3.5	—	東港

室蘭港 (42° 21' N 140° 58' E) (海図W16) (JP MUR)



(2017年8月撮影)

港種 特定港、開港、検疫港、出入国港、家畜検疫の港、植物防疫の港、国際拠点港湾

- 5 **概要** 内浦湾の東側にある港で、港域内は第1区～第3区の3港区及び航路に分かれている。この港は幅約1～2M、湾入約4Mの天然の良港であるが、港口が北西方に開いており、また、港の東側が低い平地のため、西風の強吹時には港内でもかなり波立つ。

タンカー及び鉱石船などの入港が多く、~~貨物取扱量は道内第2位で苫小牧港に次いでいる。~~

強風は冬季(11月～翌年2月)に集中し、西寄りの風速10m/s以上の日は、月平均10～15日以上に及ぶ。

- 10 **潮汐** この港における平均高高潮は1.4m、平均低低潮は0.4m、平均水面は0.95mである。

副振動 約53分間を周期とする海面の昇降があるが、その昇降が10cmを超えることはまれである。

海水 1987年に港内の一部が結氷したことがある。

目標

地物名	概位	備考
煙突	42° 21.0' N 140° 58.9' E	高さ79m、灰色
煙突	42° 21.2' N 140° 59.9' E	高さ55m
イヨシサンベ	42° 20.2' N 140° 57.1' E	高さ140mの円すい形の山
煙突	42° 20.6' N 140° 59.3' E	高さ154m、赤白塗、煙突群の西端
煙突	42° 21.9' N 140° 56.9' E	高さ185m
風力タービン	42° 20.7' N 140° 56.5' E	高さ100m、白色
風力タービン	42° 19.6' N 140° 58.9' E	高さ100m、白色
風力タービン	42° 19.6' N 140° 59.1' E	高さ120m、白色

- 15 **通信** 船舶と港長との間で、「ほっかいどうほあん」を介しVHF無線電話による港務通信ができる。

呼出名称	周波数(呼出・応答/通信)	運用時間	連絡先
ほっかいどうほあん HOKKAIDO COAST GUARD RADIO	ch16/12	常時	室蘭海上保安部

水先 室蘭水先区水先人会に要請する。(第1編 総記 第6章 水先、14ページ参照)。

入港上の注意 北外防波堤東側沿いの生けすや西方の養殖施設、ニマ岬(42° 20.1' N 140° 55.8' E)西方の養殖施設に注意を要する。

針路法 航路は大黒島の西北西方から東方に港内の日本製鉄ふ頭西方沖まで伸びている。

港内には、導灯が日本製鉄ふ頭に4対、~~日通ふ頭に1対~~、導標が中央ふ頭に1対、本輪西ふ頭に2対が設置されており、入港着岸に際してはこれらを利用するとよい。

航泊制限 石油類の引火による事故防止のため、一般船舶は港内に停泊中の引火性危険物積載タンカー（タンク船を含む）から30m以内の海面に立ち入ることが禁止されている。なお、同タンカー（タンク船を含む）は、港内停泊中、夜間においても容易に視認しうる「引火性危険物積載中」の垂れ幕等を掲げている。
(平成30年1月31日港長公示第2号)

錨泊禁止 室蘭港第4号灯標付近から中央ふ頭に至る第1区の中央部に錨泊禁止区域がある。(平成30年1月31日港長公示第1号)

10 **錨地** 検疫錨地はポロシレット岬(42° 22.4' N 140° 54.9' E)の西南西方約1.8Mにあるが、養殖施設が近くにあるので注意を要する。原則として危険物積載船は第3区北側に停泊場所が指定される。港域内外の底質は概ね砂で、錨かきは比較的良好である。

港内は泊地が狭く危険物積載船舶も多いため、港内停泊船舶は、気象通報を必ず聴取して荒天当直を実施するなど、事故を未然に防止できるよう保船に十分留意することが必要である。

15 低気圧の通過後、東寄りの風が西寄りの強風に急変することが多いので、風向が南東(又は北東)から更に右転(又は左転)したならば、速やかに西～北西の風に備えて投錨し直すこと。

港湾施設

名 称	概 位	長 さ (m)	水 深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備 考	
崎 守 ふ 頭	1号岸壁	42° 22.2' N 140° 55.1' E	185	10	15,000×1	クレーン
	2号岸壁	42° 22.2' N 140° 55.2' E	185	10	15,000×1	
	3号岸壁	42° 22.1' N 140° 55.4' E	185	10	15,000×1	
	4号岸壁	42° 22.1' N 140° 55.5' E	240	12	30,000×1	クレーン
	5号岸壁	42° 22.0' N 140° 55.7' E	240	12	30,000×1	
	6号岸壁	42° 21.9' N 140° 55.8' E	280	14	50,000×1	
	7号岸壁	42° 21.9' N 140° 56.0' E	206	10	15,000×1	
係船くい	42° 21.8' N 140° 56.1' E	25	10	15,000×1		
祝 津 ふ 頭	内航岸壁	42° 20.8' N 140° 56.8' E	200	6	3,000×2	クレーン
	1号岸壁	42° 20.8' N 140° 56.7' E	410	10～12.5	18,000×1	クレーン
2号岸壁	42° 20.8' N 140° 56.6' E	12.5		18,000×1	クレーン	
西1号ふ頭1・2号岸壁		42° 20.2' N 140° 57.9' E	256	7	5,000×2	
西1号ふ頭3号岸壁		42° 20.3' N 140° 57.9' E	211	2.5～4.5	—	護岸
西1号ふ頭4・5号岸壁		42° 20.2' N 140° 57.8' E	333	2.5～4.5	2,000×4	
西 2 号 ふ 頭	1・2号岸壁	42° 20.1' N 140° 58.1' E	360	7.5～10	10,000×1 15,000×1	
	3号岸壁	42° 20.2' N 140° 58.1' E	150	6	5,000×1	
	4・5号岸壁	42° 20.1' N 140° 58.0' E	257	6.5	5,000×2	
	6号岸壁	42° 20.1' N 140° 57.9' E	130	3.5	700×2	
西 3 号 ふ 頭	A岸壁	42° 19.9' N 140° 58.2' E	100	5.5	2,000×1	1号岸壁東隣
	B岸壁	42° 19.8' N 140° 58.3' E	100	5.5	2,000×1	A岸壁南側
	1号岸壁	42° 19.9' N 140° 58.2' E	125	4～7	5,000×1	
	2号岸壁	42° 20.0' N 140° 58.2' E	185	8.5	10,000×1	
	3号岸壁	42° 20.1' N 140° 58.2' E	135	7.5	5,000×1	
	4号岸壁	42° 20.0' N 140° 58.1' E	195	9～10	10,000×1	
5号岸壁	42° 20.0' N 140° 58.0' E	150	4.5	700×2		

錨地 検疫錨地は第3区の港界付近(42° 36.4' N 141° 36.0' E)にあり、危険物積載船は第4区に錨泊しなければならない。

港湾施設

名称	概位	長さ(m)	水深(約m)	係船能力(D/W×隻)	備考	
北ふ頭1・2号岸壁	42° 38.5' N 141° 37.3' E	延長 260	7~7.5	5,000×2		
北ふ頭3・4号岸壁	42° 38.6' N 141° 37.5' E	延長 180	4.5~5	2,000×2		
東ふ頭3~6号岸壁	42° 38.5' N 141° 37.6' E	延長 571	6.5~9	10,000×4		
西ふ頭1~3号岸壁	42° 38.3' N 141° 37.4' E	延長 660	8~9	10,000×4		
南ふ頭1・2号岸壁	42° 38.0' N 141° 37.5' E	延長 370	9.5~10	15,000×2		
南ふ頭3号岸壁	42° 37.9' N 141° 37.5' E	195	11	20,000×1		
入船ふ頭岸壁	42° 38.3' N 141° 37.7' E	延長 330	10.5~14	40,000×1	クレーン	
晴海ふ頭	1号岸壁	42° 38.6' N 141° 39.2' E	240	11.5~12	30,000×1	
	2号岸壁	42° 38.5' N 141° 39.1' E	240	12	30,000×1	
	3号岸壁	42° 38.5' N 141° 38.9' E	170	10	10,000×1	
中央北ふ頭	1号岸壁	42° 38.7' N 141° 39.6' E	206	10	15,000×1	
	2号岸壁	42° 38.8' N 141° 39.8' E	260	12	30,000×1	
	3号岸壁	42° 38.8' N 141° 39.9' E	256	11.5~12.5	30,000×1	
	4~6号岸壁	42° 38.9' N 141° 40.2' E	延長 349	6.5~7.5	5,000×3	
中央南ふ頭	西岸壁	42° 38.6' N 141° 40.0' E	165	9	10,000×1	
	1号岸壁	42° 38.6' N 141° 40.2' E	240	12	30,000×1	クレーン
	2号岸壁	42° 38.6' N 141° 40.3' E	240	12	30,000×1	
	3号岸壁	42° 38.7' N 141° 40.4' E	130	7~8	5,000×1	
勇払ふ頭	1号岸壁	42° 39.0' N 141° 41.5' E	280	12	30,000×1	
	2号岸壁	42° 39.1' N 141° 41.7' E	185	10	15,000×1	
	3・4号岸壁	42° 39.1' N 141° 41.9' E	延長 260	7.5	5,000×2	
	5号岸壁	42° 39.3' N 141° 41.8' E	240	12	30,000×1	
	6号岸壁	42° 39.4' N 141° 41.8' E	165	9	10,000×1	
中央ふ頭2号岸壁	42° 36.5' N 141° 46.9' E	360	14	30,000×1	コンテナクレーン	
中央ふ頭3号岸壁	42° 36.7' N 141° 47.0' E	360	13.5~14	50,000×1	コンテナクレーン	
周文ふ頭2号岸壁	42° 36.7' N 141° 49.2' E	240	12	30,000×1		

上表のほか、西港区(西港)及び東港区(東港)とも各会社専用の係船施設が多数ある。

5

架空線 中央北ふ頭4号岸壁の東側から苫小牧ケミカル岸壁へ、水路を横断する架空線(高さ55m)がある。

最大入港船舶

10

西港区(西港)内 2011年8月28日、客船 飛鳥II(50,142t、喫水8.1m)が入船ふ頭岸壁に着岸した。
2015年2月11日、タンカーC. INNOVATOR(164,533t、喫水20.5m)が出光北海道シーバースに着岸した。

東港区(東港)内 2015年7月19日、タンカーTSURUGA(160,068t、喫水14.4m)が北海道石油共同備蓄棧橋に着岸した。

15

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、苫小牧海上交通安全協議会(苫小牧港地震・津波・台風等対策委員会)が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・

医療施設

名 称	電 話 番 号
浦河赤十字病院	0146-22-5111

様似《サマニ》港 (42° 08' N 142° 55' E) (海図W30) (JP SAM)



(2017年8月撮影)

5

港種 港則法適用港

概要 浦河港の東南東方約7M、エンルム岬の西側にある港である。漁船のほか、鉱石積取船が毎月数回入港する。エンルム岬は岩棚に囲まれている。

潮汐 この港における平均高高潮は1.3m、平均低低潮は0.4m、平均水面は0.89mである。

10

目標

地物名	概 位	備 考
ソビラ岩	42° 07.6' N 142° 54.8' E	高さ35m
親子岩	42° 07.7' N 142° 54.2' E	3岩から成り、最高岩は高さ33m
観音山	42° 07.9' N 142° 54.9' E	高さ101m、山頂付近に展望台がある。

錨地 エンルム岬の東側は水深5m前後、底質細砂で、船艇が西風を避けるのには好適であるが、南東風時にはうねりが大きくなる。

港湾施設

名 称	概 位	長 さ (m)	水 深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備 考
-3.5m岸壁	42° 07.6' N 142° 54.8' E	160	2.5~3	—	魚市場がある。
-4m岸壁	42° 07.7' N 142° 54.9' E	148	2~2.5	—	
-5m岸壁	42° 07.6' N 142° 55.1' E	80	1.5~3.5	—	中央部北防波堤東側
-4.5m岸壁	42° 07.6' N 142° 55.2' E	150	3	—	
-6m岸壁	42° 07.5' N 142° 54.7' E	100	6	—	ソビラ岩南側

15

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、浦河港・様似港・えりも港台風・津波等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解

除等の災害防止措置を指導している（問合わせ先：浦河海上保安署 TEL 0146-22-9118）。

補給 少量の清水及び燃料油の補給ができる。

医療施設

名 称	電 話 番 号
三和医院	0146-36-3101

5

えりも港 (42° 01' N 143° 09' E) (海図W30) (JP EMM)



(2017年9月撮影)

港種 港則法適用港、避難港

概要 様似港の南東方約12Mにある港である。北～東の風が強く、襟裳岬以東の海域で波の高いときには、この港の内外に避泊するとよい。港口の北西方及び南東方は、距岸500m前後まで水深5m未満の暗礁が広がっている。利用船舶は100t以下の地元漁船が多い。

潮汐 この港における平均高高潮は1.3m、平均低低潮は0.3m、平均水面は0.86mである。

目標

地物名	概 位	備 考
観音山	42° 01.0' N 143° 09.1' E	
無線塔	42° 00.9' N 143° 09.1' E	パラボラアンテナ

針路法 えりも港南外防波堤西灯台を北東に見て接近し、南部家埼 (42° 01.2' N 143° 08.4' E) 付近から南西方へ約1.2M延びる定置網や港口付近の暗礁を十分に離して回り、港内に入る。

南寄りの強風時には、港口南側で波が大きくなるので、操船には十分注意しなければならない。

錨地 えりも港南外防波堤西灯台を073°に見る水深約10m、底質砂の所に錨泊することができるが、南西風が吹くときは注意を要する。

20

港湾施設

名称	概位	長さ (m)	水深 (約m)	係船能力 (\uparrow ×隻)	備考
北澗内岸壁	42° 01.1' N 143° 08.6' E	70	3.5	500×1	
北澗内物揚場		180	3.5	—	

上表のほか、南奥の漁船だまりに-4m、-3.5m及び-3m物揚場（総延長 465m）がある。

- 5 **台風・津波対策** 台風・津波等による海難事故を防止するため、浦河港・様似港・えりも港台風・津波等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問合わせ先：浦河海上保安署 TEL 0146-22-9118）。

補給 少量の清水、燃料油及び氷の補給ができる。

医療施設

名称	電話番号
えりも町国民健康保険診療所	01466-2-2265

10

襟裳岬付近（海図W1031）

概要 この項には、えりも港～襟裳岬間の南西岸と東岸の百人浜について記載する。

この付近の10m等深線は、距岸約0.5M以内にある。南西岸には、一般船舶の利用できる港湾はない。

えりも港～襟裳岬間の距岸700m以内には、水深5m未満の岩礁が多く、その外側は急に深くなる所が多い。

四ツ谷埼（41° 59.1' N 143° 09.8' E）から襟裳岬までの海岸は、常に波に洗われている。

- 15 襟裳岬の両側は、岩の多いがけで、干出礁脈が南東方へ延びている。また、海岸段丘が発達し、南西岸は干出岩棚が海岸沿いに多数ある。東岸の百人浜は長さ約5.5M、幅約1kmの砂浜で、この付近は風が強く、その強いときには砂ぼこりがひどい。

目標

地物名	概位	備考
襟裳岬	41° 55.5' N 143° 15.0' E	岩のがけで岬上に灯台がある。襟裳岬は東・西方向から望むと、岬端が隠れて石山付近をこの岬と誤認することがある。
高さ225mの山	41° 58.2' N 143° 12.7' E	高さ225m、山頂に非常に顕著な薄緑色の2ドームと2無線塔（各パラボラアンテナ）がある。
高さ971mの山	42° 03.8' N 143° 14.9' E	高さ971m、山頂付近に2無線塔がある。
豊似岳	42° 04.6' N 143° 14.0' E	高さ1,105m、鋭峰で遠望顕著

- 20 **注意** 襟裳岬の沖合は航路の要所に当たり、船舶の通航が非常に多いうえ、この付近は好漁場で、常に多数の漁船が操業している。しかも岬付近は、10m/s以上の強風日数が年間290日以上にもなり、荒天が多い。

また、夏季は濃霧、冬季は吹雪のため視界が悪く、航海を困難にする。この岬を回るときには、十分に離して航行しなければならない。

25

を襟裳岬と誤認して、両岬間に乗り揚げた例がある。

避泊錨地 ルベシベツ埼とその北北西方約 1.5Mの音調津《オシラベツ》漁港 (42° 14′ N 143° 19′ E) との間は浅く湾入しており、距岸約 900m、水深 14~16m、底質砂の所は、襟裳岬~釧路港間では西寄りの風のときの避泊錨地として良い。しかし、距岸 300m以内は水深 5m未満の岩礁が多く、また、ルベシベツ埼から北東方へ約 0.9M延びる定置網があるので、錨地に進入する際は注意を要する。

西寄りの風が強くて襟裳岬以西の海面が荒れているときには、百人浜北部沖合、庶野鼻北東方、猿留《サルル》鼻 (42° 06.9′ N 143° 19.4′ E) 北東方などに 500 t級の船舶が仮泊することがあるが、沿岸から距岸 1~1.5Mには、定置網が多数設置されているので注意を要する。

また、西風が次第に強まるときや、風向が南へ寄るときには、北方のルベシベツ埼沖又は十勝港沖に錨泊するほうがよい。

庶野《シヨヤ》漁港 (42° 02′ N 143° 18′ E) (海図W1031)



概要 襟裳岬の北北東方約 7.5Mにある港で、西防波堤（東端に灯台がある）と東防波堤に囲まれた泊地は南方へ開いており、西防波堤灯台の南南東方約 300mに南防波堤、その東方に外東防波堤（南端に灯台がある）がある。北側にふ頭及び突堤に囲まれた船だまりがある。船だまり内は風波の影響を受けることなく、西風の強いときには 100 t以下の船舶の避泊に適する。南東のうねりのあるときは入港が困難である。

潮汐 この港における平均高高潮は 1.3m、平均低低潮は 0.3m、平均水面は 0.91mである。

目標

地物名	概位	備考
庶野鼻 〔トセツ岬〕	42° 02.9′ N 143° 18.6′ E	庶野漁港を知る良いレーダ目標である。

その他、船だまり北側の魚市場（青屋根）は入港目標になる。

港湾施設

名称	概位	長さ (m)	水深 (m)	係船能力 (D/W×隻)	備考
-4.5m岸壁	42° 02.6′ N 143° 17.7′ E	延長 419	3	-	
-3m岸壁	42° 02.6′ N 143° 17.9′ E	延長 291	3	-	
-4m岸壁	42° 02.6′ N 143° 17.9′ E		3	-	
-3.5m岸壁	42° 02.6′ N 143° 17.8′ E	175	3	-	

目標

地物名	概位(区域)	備考
サイロ	43° 11.4' N 141° 17.7' E	高さ48m、灰色、顕著
煙突	43° 11.7' N 141° 16.4' E	高さ87m、白色、顕著
無線塔	43° 11.6' N 141° 16.4' E	高さ100m、顕著
風力タービン (14基)	次の4地点により囲まれる区域内 (1)43° 13.5' N 141° 15.8' E (2)43° 12.9' N 141° 16.5' E (3)43° 11.9' N 141° 14.9' E (4)43° 12.4' N 141° 14.3' E	全基に航空障害灯(赤色) (1)(2)(3)(4)に施設灯(黄色 同期点滅)(高さ23m) (1)と(4)、(2)と(3)の間に簡易標識灯(黄色 同期点滅) 各風力タービン間、及び(3)から南東方向岸線まで海底 電力線が敷設されている。
風力タービン (6基)	43° 10.9' N 141° 15.6' E	海岸に約200m間隔で設置
風力タービン (4基)	43° 10.2' N 141° 14.2' E	海岸に約200m間隔で設置

通信 船舶と港長との間で、「ほっかいどうほあん」を介しVHF無線電話による港務通信(安全)ができる。

5 また、船舶と港湾管理者との間で、VHF無線電話による港務通信ができる。

	呼出名称	周波数(呼出・応答/通信)	運用時間	連絡先
港長	ほっかいどうほあん HOKKAIDO COAST GUARD RADIO	ch16/12	常時	小樽海上保安部
港湾管理者	いしかりポートラジオ	ch16/11, 12, 14	0600~2000	0134-31-5635

水路 港内中央部から花畔ふ頭及び樽川ふ頭に至る水路(幅約300m、水深7.5~10m)があり、石狩湾港管理組合導灯(前灯)(後灯)(2灯一線167.7°)により導かれる。同水路は掘下げ水路のため水路を外れると浅い。

10 **航泊制限** 引火性危険物積載タンカーの引火による事故を防止するため、一般船舶は港内に停泊中の同タンカーから30m以内の海面に立ち入ってはならない。なお、同タンカーは、港内停泊中、夜間においても容易に視認しうる「引火性危険物積載中」の垂れ幕を掲げている。

錨地 底質は、主に砂で錨かきは悪く、北寄りの風波が大きいときには走錨の恐れがあり、錨泊には適さない。

15 港湾施設

名称	概位	長さ(m)	水深(約m)	係船能力(D/W×隻)	備考
東ふ頭	木材岸壁	43° 12.8' N 141° 18.0' E	185	7~10	15,000×1
	2号岸壁	43° 12.9' N 141° 18.3' E	130	6.5~7	5,000×1
	3号岸壁	43° 12.8' N 141° 18.3' E	130	6.5	5,000×1
花畔ふ頭	1号岸壁	43° 11.5' N 141° 17.5' E	185	6~8.5	15,000×1
	2号岸壁	43° 11.4' N 141° 17.6' E	185	8~9	15,000×1
	3号岸壁	43° 11.3' N 141° 17.6' E	170	9.5~10	5,000×1
	4号岸壁	43° 11.2' N 141° 17.6' E	220	6.5~7	5,000×1
樽川ふ頭	1号岸壁	43° 11.5' N 141° 17.3' E	185	8~9	15,000×1
	2号岸壁	43° 11.4' N 141° 17.3' E	185	6~8	15,000×1
	3号岸壁	43° 11.3' N 141° 17.3' E	130	6.5	5,000×1
	4号岸壁	43° 11.2' N 141° 17.3' E	130	3~6	5,000×1
	5号岸壁	43° 11.1' N 141° 17.4' E	130	2.5~3.5	5,000×1
西ふ頭1号岸壁	43° 11.9' N 141° 16.9' E	280	14	50,000×1	

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、石狩・後志地域台風・津波等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等

目標

地物名	概位	備考
立象山《リッシュウサン》	42° 27.4' N 139° 51.1' E	高さ 95m、頂部に展望台がある。
蠟燭《ロウソク》岩	42° 27.3' N 139° 50.6' E	高さ 24m
風力タービン	42° 26.7' N 139° 50.4' E	高さ 70m、 港内に2基、陸上に6基がある。
風力タービン	42° 26.5' N 139° 50.3' E	
風力タービン	42° 26.9' N 139° 50.9' E	
風力タービン	42° 26.7' N 139° 50.8' E	
風力タービン	42° 26.5' N 139° 50.8' E	

出入港上の注意 南西寄りの強風時には、出入に注意する必要がある。

港域内の沿岸は、多数の水上岩、暗礁が散在している。

- 5 蠟燭岩は干出礁に囲まれて、その西北西方約 280mに蠟燭岩高ソリ (42° 27.4' N 139° 50.4' E、最小水深 1.7mの暗礁)がある。南外防波堤灯台の南南西方約 350mにクジラ岩 (42° 26.9' N 139° 50.4' E、高さ 1.4m) があり、また、東外防波堤の中ほどから北方約 140mの間は、水深 5m以下の暗礁脈がある。

港湾施設

名称	概位	長さ (m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考
西ふ頭岸壁	42° 27.3' N 139° 50.6' E	145	1~3	700×2	
北ふ頭岸壁	42° 27.4' N 139° 50.7' E	150	1.5~3	700×1 2,000×1	
中央ふ頭物揚場	42° 27.3' N 139° 50.7' E	100	3~4		
外ふ頭岸壁	42° 27.2' N 139° 50.8' E	115	4.5~5.5	2,000×1	
東岸壁	42° 27.1' N 139° 50.8' E	200	2.5~4.5	2,000×2	
南岸壁	42° 26.9' N 139° 50.8' E	130	6~6.5	5,000×1	

10

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、渡島及び檜山地区台風・津波等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問合わせ先：函館海上保安部 TEL 0138-42-5658）。

海事関係官公署

官公署名	連絡先
瀬棚海上保安署	0137-87-2634

15

補給 清水、氷及び燃料油の補給ができる。

廃油処理施設

事業者名	申込先	利用時間	処理する廃油の種類	
			廃重質油	廃軽質油
(株) テクノ	0133-64-5222	0830~1800	ビルジ、水バラスト、タンク洗浄水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ	ビルジ、水バラスト、タンク洗浄水、コレクトオイル、スロップオイル、スラッジ

医療施設

名称	電話番号
せたな町立国保病院	0137-84-5321